

機械工学委員会

機械工学の将来展望分科会（第24期・第3回）議事録

日時 令和1年12月24日（火）10:00～12:00

会場 東京大学本郷キャンパス工学部2号館232会議室

出席委員：大島まり、菱田公一、岡崎健、大竹尚登、佐々木直哉、塩見淳一郎、松本健郎、森下信、矢部彰

欠席委員：岩城智香子、岸本喜久雄、北村隆行、松尾亜紀子

議事

1) 今期の活動報告（シンポジウム、マスタープラン）

- ・公開シンポジウム「機械工学の将来展望：イノベーション創出にむけた次の一手」シンポジウムが平成31年4月16日（火）に開催されたことが、委員長から報告された。
- ・機械工学分野および複合領域での提案について大島委員長から説明があった。

2) 提言に向けて（趣旨、スケジュール、たたき台）

- ・菱田副委員長から、提言の趣旨、スケジュール、これまでの経緯、今回まとめる上での課題について説明があった。
- ・塩見幹事より、現時点でのたたき台の説明があった。

3) 意見交換

様々な意見が出された。

- ・機械系の学会に広く声をかける必要がある。
- ・機械系の学会の一体感が見えるようにした方がよい。
- ・目標を明確にするべきである。
- ・マスタープランの内容を含めて、目印を立てるのは重要である。
- ・学術会議と学協会との距離感を近づきたい。
- ・飛びのある技術進展の提案が少ない。
- ・伝熱学会の特定推進研究の例などはある。
- ・大型施設計画という名前が提案を出し難くしている可能性がある。
- ・企業側からのニーズや産学連携は緊急性の主張に繋がる。
- ・異なる分野を繋ぐ役割を機械工学が担えるはず。

- ・地道な提案と、そのエビデンスを残すことによって、広く認知してもらうことも重要。
- ・政府系の会議も含めて、発信していく必要がある。機械系にとっては今がチャンスである。

4) 今後の分科会の活動計画について

- ・大島委員長から今後の活動計画について説明があった。

配布資料

- 資料1 公開シンポジウム「機械工学の将来展望」フライヤー
- 資料2 マスタープランについて
- 資料3 マスタープランの概要（一部抜粋）
- 資料4 前回の機械工学委員会提言2010（概要抜粋）
- 資料5 今回の提言のたたき台